

令和7年度第1回 東松山市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和7年5月23日（金）			開会	14時00分	
				閉会	16時05分	
開催場所	東松山市役所 総合会館3階 303会議室					
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）市民意識調査の結果概要等について （2）将来像について （3）人口推計について （4）まちづくりの柱について （5）策定スケジュールについて 4 閉会					
公開・非公開の別	公開			傍聴者数		0人
審議会委員	委員	飯島 徹	出	委員	須田 知樹	出
	委員	今村 美代子	出	委員	中嶋 啓一朗	出
	委員	小野寺 亘	出	委員	中田 幸昌	出
	委員	小峰 良介	欠	委員	長島 洋介	欠
	委員	椎名 孝典	出	委員	細田 咲江	出
	委員	島田 政信	出	委員	佐藤 幸俊	出
	委員	杉山 武志	出	委員	関根 美沙	出
事務局	政策財政部長 桶谷 易司			政策財政部次長 関根 隆（欠）		
	政策推進課長 今井 秀典			政策推進課活性化戦略室長 原田 政洋		
	政策推進課主査 江原 友博			政策推進課主任 長嶋 宥佑		
	政策推進課主事 嶋岡 佑香					

次 第	顛 末
1 開会	(事務局開会宣言)
2 あいさつ	(小野寺会長あいさつ)
3 議題 (1) 市民意識調査の結果概要等について	《市民意識調査の結果概要等について事務局から説明》 【資料1】令和6年度市民意識調査―第六次総合計画に向けて―事務局より結果概要の説明。 【質疑応答・意見】
杉山委員	都内に転出した市民がいずれ東松山市に戻ってきたいと思ってもらえる魅力あるまちづくりが出来たら良いと考えます。
事務局	都内に転出した市民の中には、東松山市では出来ないことが都内では出来るという意見を持っている方も当然いると思いますので、移住定住政策の難しさというところを非常に実感しております。
島田委員	回答率が下がっているが、設問数が増えているように見受けられます。回答率の減少や設問数についてはどのように考えていますか。
事務局	回答率が減少傾向であることを踏まえて、昨年度は初めてインターネットによる回答方法も取り入れましたが、回答率が下がってしまいました。設問数は事務局でも多いと考えていますが、必要な設問を残していると考えています。ただし、今後さらに設問の精査をし、市民の方のご意見を十分に反映することのできる設問であるのかどうか精査していきます。
島田委員	例えば、回答しているものが全体の何問目であるかなど現在の進捗状況を回答者が把握できるものがあると良いと思います。終わりが見えないことで、途中で回答をやめてしまう可能性もあると思います。また、回答者にこども動物自然公園の招待券が抽選で当たるなどの策を講じれば、回答率も上昇するのではないのでしょうか。
事務局	電子でアンケートを実施するのであれば、現時点で全体の何パーセントまで回答が終了しているのかなど自分の今の立ち位置がわか

	るような方法も検討したいと思いますが、費用面も考慮する必要があります。
島田委員	参考までに最後まで回答するのに要する時間はどれくらいでしょうか。
事務局	実際に要する時間は計算していませんが、10分以上かかると思います。今回の市民意識調査の回答率は例年よりも下がってしまいましたが、同じように市民意識調査を実施している他市町村と比べると回答率は高いほうになります。回答率が下がっていることは事実ですので、回答率を上げるための策を検討していきます。
飯島委員	設問によつての回答率にばらつきが生じる恐れはありますが、インターネットを使用した回答であっても途中で提出できるシステムがあれば、回答率は増えるのではないのでしょうか。
今村委員	アンケートを始める前に平均的な回答時間を提示してもらえると必要な時間の目安がわかるので、時間を見つけて回答できるかもしれません。
事務局	参考にさせていただきます。
中田委員	防災、減災への取組については、当たり前と思われがちな観点ですが、生活の質を向上させるために不可欠なインフラ事業をベースにまちづくりの方向性が定められると良いと思います。
飯島委員	チャット GPT では、本市における問題点について若年層の定住志向を挙げています。歩育やブックスタートなど特色のある子育て事業を行っていますが、若年層をどのように定住させるのかを検討する必要があると分析しています。
事務局	貴重なご意見をありがとうございます。計画策定の参考にさせていただきます。
細田委員	設問における若年層など年齢によつて回答のばらつきは生じているのでしょうか。また、「わからない、無回答」の意見が多いものと少ないものが見受けられます。答えづらいのか、答えられないのかななどを精査することで設問数の削減にもつながるのではないでし

	ようか。
事務局	ご指摘の点を踏まえ、データ分析を行い、次回の設問設定に活かしたいと思います。
須田委員	回答数については無回答が反映されていないということでしょうか。20～29歳については定住志向が少ないが、調査対象者については一人暮らしをしている大学生なのか、生まれも育ちも東松山市であるのかなど精査をし、対策を検討する必要があると思います。また、年ごとにテーマを絞り、設問数を減らして調査をすることも回答率を上げる方法の一つになると思います。
事務局	ご指摘の点について、参考にさせていただきます。
(2) 将来像について (3) 人口推計について (4) まちづくりの柱について	《(2) 将来像について (3) 人口推計について (4) まちづくりの柱について をまとめて事務局から説明》 【資料2】将来像 【資料3】人口推計 【資料4】第六次計画におけるまちづくりの柱（素案） 【(2) 将来像についての質疑応答・意見】
飯島委員	「住みよさ」よりも「住みやすさ」という表現の方が正しい気もしますが、聞いた響きでは「住みよさ」で問題ないと感じました。住みよさについては住みよさランキング上位の実績も鑑みているのでしょうか。また、個人的には、「行こっか 住もっか 東松山」が良いと思いました。
事務局	住みよさランキング上位の実績についても包含しています。「行こっか 住もっか 東松山」については若手職員には好評でした。
島田委員	名詞を繋げるとわかりづらい表現になってしまう恐れもあります。「住みよく やさしい 東松山」も文章としてまとまっていると感じますが、いかがでしょうか。
事務局	余韻が残るような体言止めで考えてみました。また、韻を踏んでリズム感を出している点もポイントになります。

	【(3) 人口推計についての質疑応答・意見】
中田委員	人口推計に世帯数の推計も付け足してみてもどうでしょうか。また、子育て世帯など、ターゲットを絞って移住対策を検討する必要があるのではないのでしょうか。
事務局	ターゲットを絞ることで、本市が進めるべき施策や事業の選定に繋がると思いますので、しっかりと検討していく必要があると考えます。
島田委員	計画を策定するうえでは、昼夜間人口の動態についても分析してみる必要があると考えます。
事務局	昼夜間人口の動態についても分析したいと思います。
中嶋委員	市街化調整区域にも新築住宅を建築できるという特例が一昨年廃止となったことで、人口減少につながる恐れがあると考えます。市街化区域内で空き家をリノベーションして売り出すのか、更地にして売り出していくのか、行政でも把握して情報発信していただきたいと思います。
事務局	市街化調整区域にも新築住宅を建築できるという特例により、人口減少が抑制されてきた部分もあると考えます。今後は、市街化区域内の人口を保っていく施策をどのように展開していくか、民間の動向を確認しながら進めていく必要があると考えています。
中嶋委員	本市で新築の家を建てたいと希望する方は、市街化区域内よりも市街化調整区域でコストを抑えて建てようとする需要の方が多いのではないかと思います。住みたい場所や購入する価格帯を調査し、それに見合うような施策を展開してみてもいいのではないでしょうか。
事務局	市街化区域でも、駅周辺から離れているところがあります。市街化区域の空き家問題もありますので、委員のご意見も参考にして施策を検討したいと思います。
飯島委員	人口推計のグラフを確認すると右肩下がりであるため、行政として歯止めをかけるような施策を考える必要があるかもしれません。人口減少について歯止めがかかる予定はあるのでしょうか。

事務局	人口減少は全国的な問題であり、歯止めがかかるかどうかを推計するのは困難であると考えます。また、歯止めをかけるための施策についても、難しいのが現状です。
細田委員	資料3のパターン1 社人研推計は出生率をどのくらいで計算しているのでしょうか。
事務局	過去の国勢調査を基に推計している数字となりますので、出生率は1.25で計算しています。
細田委員	個人的な見解ですが、「目標人口」には、子どもを産んでくださいと押し付けられているような印象が強くあります。「目標」という言葉が表現として好ましくないと思っていたので、「目標」という言葉を使用しないことについて賛成です。
事務局	昨今の時代の流れを考慮すると、結婚して子どもを産むという考えがすべてではないと思います。こうした時代背景も含めて、「目標」という言葉を使用しないこととしました。
中田委員	人口推計については2070年まで記載するのでしょうか。また、高齢化率を記載することも検討してはどうでしょうか。
事務局	年数をどこまで記載するかについては、現在検討中です。高齢化率の記載についても検討します。
島田委員	グラフには、日本人のみではなく外国人人口も含まれているのでしょうか。
事務局	国勢調査を基に計算しているので、外国人人口も含まれています。外国人の増減については予想が難しいところがありますが、住民基本台帳における直近5年間のデータからは1,000人近く増加しております。
須田委員	人口減少ということが前提になりますが、各地区や地域でコミュニティを維持しつつ、地域ごと引っ越してもらふことなどは考えているのでしょうか。
事務局	居住誘導地域は定めていますが、代々受け継いでいる土地を守り

	たいという思いなどもあるため、行政として地域ごとに移転を促すというようなことは現状では考えていません。
須田委員	人口減少が進む中では、市内の人口配置についても施策を考える必要があるのではないのでしょうか。
事務局	どこまで行政が介入できるかわかりませんが、非常に難しい問題であると思います。人口減少が進んでいくと、地域によっては生活インフラが維持できなくなる恐れもあります。難しい問題ですが、解決策を講じていく必要があると考えています。
杉山委員	グラフはパターンDも理解しやすいと思います。市として人口減少問題に対する施策を講じ、効果があれば社会増として50人増加するなどという一種の指標がある方が計画としても良いかと考えます。
事務局	指標に対象となる人口や世帯などの増加を掲げて明確にすることで、事業に注力することができるようになる部分もあると思います。
須田委員	いわゆる通勤族の方々については、ふじみ野や志木などの都内から近い場所へ転出してしまい、流出人口が増加してしまう可能性があります。流入人口を増加させ、流出人口を減少させるのが理想ですが、社会減となる可能性も踏まえ、施策などを考えても良いかと思っています。
事務局	社会減とならないよう対応していきますが、社会減となることも念頭に置きながら施策などを考えていきます。
	【(4) まちづくりの柱についての質疑応答・意見】
中嶋委員	比企青年会議所については年々会員数が減少傾向にあり、会員は建設業や製造業などが多い状況です。行政としてはどのような分野にターゲットを絞って企業誘致を行っていくのでしょうか。
事務局	企業誘致も継続して行っていますが、開発が難しい土地も多く、坂東山、藤曲地区などと同程度の規模の工業団地を誘致することは土地の活用上厳しいのが現状です。中心市街地では、商店が並ぶような展開になることが理想的であると考えています。

中嶋委員	県北部や西部では、企業誘致は物流倉庫が多い印象を受けます。雇用を生んでいるとは思いますが、産業とは言い難いのではないのでしょうか。商業の面も含めて、市内の事業者が市外に流出しないような施策の展開が必要だと感じます。地元の企業に元気になってもらえるような施策も大切であると感じます。
中田委員	市内の工業団地は上下水道が整っているため、企業の進出条件としては非常に良いと思います。しかしながら、民間取引の中では行政が介入する余地がないため、資金力のある物流企業であれば、たとえ上下水道が整備されていたとしても物流倉庫が進出することもあると思います。
事務局	少しでも元気と希望があると思ってもらえるようなまちになれるように、行政としてできることを実施していきます。
島田委員	生活基盤の分野にインフラの劣化についても記載して良いのではないのでしょうか。住環境については、インフラの劣化診断や劣化対策などの言葉を付け足しても良いのではないのでしょうか。
事務局	インフラについては、市民が日常生活を送る上で必須のものであると考えています。庁内プロジェクト・チームでも重点的な施策について検討しており、インフラの維持管理については複数の部署からも話が挙がっているため、しっかりと明示したいと思います。
中田委員	都内または都内に近い近郊都市では家賃が非常に高い状況です。それに比べると東松山市では家賃や家の購入価格を比較すると安価であるので、そういった面も住みやすいポイントとして PR しても良いのではないのでしょうか。
事務局	ご指摘いただいた PR ポイントも含めて、情報発信を進めていきたいと考えています。
(5) 策定スケジュールについて	《(5) 策定スケジュールについて事務局から説明》 (桶谷政策財政部長より御礼のあいさつ)

4 閉会	(事務局閉会宣言)
上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。 令和 7 年 6 月 1 0 日 署名委員 <u>中田 幸昌</u> 署名委員 <u>杉山 武志</u>	